

平成7年度

地域畜産状況レポートNo.2
社団法人 熊本県畜産会

創意工夫で低コスト・高収益

上益城郡嘉島町 藤木真也 氏

緑川・加勢川に囲まれた「水辺の町」上益城郡嘉島町。人口は7,300人、広大な田園地帯が広がるこの町は湧泉が十数ヶ所点在し、なかでも有名な水郷浮島は絶えず清水をたたえています。

緑川河川敷道路を通ると大きな畜舎に気づくと思いますが、ここが今回紹介する藤木真也牧場です。



畜舎全景

● 現在までの道のり



自家産粗飼料

昭和61年高等学校卒業後、国内で留学研修を終えてから就農したが、父の勝也さんが、議員という役務上、家を空ける機会が多いため、学生時代より一人前の労働力としてあてにされていた。当時より「どうすれば楽に農作業が行えるか」といつも考えていたようで、このことが現在の経営のなかに活かされているようです。



経営の内容



牛舎内入り口

特色は一般的な素牛の導入及び肥育牛の出荷ではなくて、預託の形態をとっていることです。預託元より素牛の供給を受け、自己所有の施設等を利用して一定期間肥育し、肥育終了後預託元に引き渡しています。(一部飼料の供給も受ける。)

藤木さんは畜産関係の業者及び団体と預託料、預託期間等について契約を交わしているということ

です。乳用種（搾乳牛肥育向け及び乳雄）は糞の量が多いため、預託料は高めに設定しています。(堆肥出しは和牛が2週間に1回であるのにたいして、乳用種の場合は週1回)

経営規模は肉用種・乳用種合わせて肥育牛500頭を飼養、労働力は家族以外は常雇用1名だけです。

経営の力点



牛舎内

収益のポイントは飼料費、敷料費をいかに低く抑えるか。そのためまず第一に自家配合の給与をおこなっています。粗飼料についても稲ワラを大量に堆肥交換などで確保し、さらにその作業体系については大幅に機械化・省力化されています。次に堆肥生産は父親の代より攪拌発酵施設を自作されて

います。現在稼働中の3号機は大型のスcoop式のもので、これも自分で設計を行い、業者に制作依頼したので大幅な経費節減となっています。

アイデア

平成7年度熊本県農業コンクール創意開発部門で二連式ロールグラブ・畜舎内ロール運搬車・堆肥攪拌発酵施設・牧草乾燥施設と数多くの自作機械を紹介して秀賞を受賞されました。各機器・施設は随所にオペレーターとしてのアイデアがいかされ、このなかには機械メーカーが視察にきたものもあるそうです。

肥育経営は素牛相場・枝肉価格など変動的な要素で左右されるところがありますが、預託の大規模経営で厳しい畜産情勢を乗り切っています。しかしこれは預託元と藤木さん本人の肥育技術があつてはじめて預託契約が成り立つことです。

収益・採算面については本人が「この規模をこの労働力で私より儲かっている肥育経営はまずいないと思います」と言うことからうかがいしれます。



ロールグラブ



堆肥施設